

## エルニーニョ

- エルニーニョは、クリスマスの頃に南米のペルー沖で海水の温度が上昇する気象現象です。スペイン語で「男の子」という意味です。
- それと反対に、同海域で海水の温度が低下する現象をラニーニャといいます。スペイン語で「女の子」の意味です。

## エルニーニョ

南米のペルーやエクアドルの沿岸沖で、毎年クリスマスの頃になると海面水温が一時的に高くなるのを、地元ではスペイン語でエルニーニョ（神の子、男の子<sup>(1)</sup>の意）と呼ぶ。ところが沿岸沖だけでなく<sup>(2)</sup>、日付変更線にかけての<sup>(3)</sup> 東部熱帯太平洋の広い海域で2～7年おきに<sup>(4)</sup>、海面水温が平年より1～2度<sup>(5)</sup>、ときには2～5度も高く、これが1年から1年半続くことがある。これをエルニーニョ現象と呼ぶ。これが起こると、赤道海域で上昇気流が活発になり、北太平洋高気圧が強まり、その影響でアリューシャン低気圧<sup>(6)</sup>が発達し、次いでアラスカの高気圧が強まるという具合に、何千キロメートルも離れた地域に次々と伝わって異常気象を起こす<sup>(7)</sup>。

## 【解説】

- (1) エルニーニョ現象はクリスマスの時期に起こるので、「神の子」の訳は、ほとんど the Son of God ではなく、the Christ Child (イエス・キリスト) となっています。
- (2) 「沿岸沖だけでなく」は not only off the coastal waters となり、water は複数形になります。特定の海域を指すとき、特に国の沿岸近くの海域を指すときには、複数形で表わします。
- (3) 「日付変更線にかけての太平洋」は、Pacific Ocean extending as far as the international date line です。as far as は場所を表わし、「～まで」の意です。別の使い方としては、範囲を表わし「～の及ぶ限り」の意があります。extending は分詞で、Pacific Ocean を修飾しています。
- (4) 「2～7年おきに」は、every 2 to 7 years となります。every は、序数、基数、other, few の前に置いて「おきに」「ごとに」の意となります（例、every weekend = 週末ごとに）。また、不定数の範囲を表わす場合、その数が連続していない場合は、to を用います。
- (5) 「1～2度」は、1 or 2 degrees となります。このように、不定数が、連続している単位の場合は、前置詞は to ではなく、or を用います。
- (6) 「アリューシャン低気圧」は、a-low pressure area over the Aleutian Islands となります。「低気圧」「高気圧」は、専門用語としては、a-low (a-high) pressure area と、必ず area を付けるようにします。
- (7) この課題では、and で文章を繋げるのではなく、結果を表わす分詞構文を使って表わすことができる個所がいくつかあります。「を起こす」は、赤道海域で上昇気流が活発になって、次々と各地域に影響を与え、その結果異常気象を起こすの意です。したがって、causing abnormal weather と、ここで結果を表わす分詞構文を用いることができます。

